

2025年6月28日石垣島米原Wリーフ西のTSコメント

2025年7月2日 吉田 稔

【3mライン】

3mライン周辺の目視観察によるサンゴ被度は10%程度であり、被覆状および塊状のサンゴ類などが見られる。ミドリイシ類は目視のサンゴ被度には影響しない程度であるが直径2～3cmの小さい新規加入ミドリイシ類が見られる。サンゴ食貝、オニヒトデ、病気等のかく乱要因は見られなかった。

RCの底質調査のハードコーラル占有率の結果は目視のサンゴ被度の値よりも高く25%と2024年の13%と比較して12%増加している。

今回、調査対象種の魚類のチョウチョウウオ類、ブダイ類が昨年と比べ少なくなっている。また調査対象種以外の小型魚類のスズメダイ類なども少ないような感じがした。無脊椎は大きな変化は見られないが、20年前では多く見られ最近では見られなくなったパイプウニが4個体も見られたのは珍しいと思われる。

【8mライン】

8mライン周辺の目視によるサンゴ被度は10%程度であり、被覆状および塊状のサンゴ類が見られ、ミドリイシ類は直径10～20cmのものが少し見られた。直径2～3cmの新規加入ミドリイシ類も少し見られた。サンゴ食貝類、オニヒトデは見られなかった。

RCの底質調査のハードコーラル占有率の結果は、3mラインと同様に目視のサンゴ被度より高く35%と2024年の20%と比較して15%増加している。

魚類はチョウチョウウオ類、フエダイ類、ブダイ類ともに減少している。無脊椎は2024年と比較して無脊椎動物はオトヒメエビとシャコガイ類が増加して、ガンガゼ類が減少していた。

◎総評

2022年夏と2024年夏の立て続けのサンゴ類の白化現象で米原周辺海域では大きな影響を受けている。しかし米原RCポイントでは2024年よりサンゴ占有率が上がっている。これは2024年夏の白化現象で被覆状および塊状のサンゴ類があまり影響を受けなかったことと直径2～3cmの新規加入ミドリイシ類（幼生が着床して2年程度のもの）が見られることが要因になっていると思われる回復の兆しが見られる。2016年の白化現象ではサンゴ類がほとんど見られないほどの影響を受けたが4年ほどで元の状態にまで回復したが今回は少し時間がかかりそうである。

石垣島の他の海域では白化現象の影響も少なく順調に回復しているところも多くみられる。米原ダブルリーフ（米原RCポイント）では陸域からの影響も受けず外洋に面しているため健全な状態が保たれている離礁と思われるが回復が遅れているのは、1～2年前のサンゴ幼生の供給が少なかったかどうか、それともほかに原因があるのか謎が深まります。

以上